

平成18年度

独立行政法人国立博物館

奈良国立博物館

実績報告書

目次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	1
(1) -1 適時適切な収集	1
(1) -2 寄贈・寄託の受入れ及びその積極的活用	2
(2) -1 収蔵品の管理・保存	3
(2) -2 保存環境の調査研究の実施	4
(3) -1 収蔵品の修理	5
(3) -2 科学的な技術を取り入れた修理	6
(4) 収集・保管のための調査研究	7
2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	9
(1) 展示の充実	9
① 平常展	9
② 特別展	12
③ 展覧会広報活動の取組み	17
(2) 情報発信機能の強化	19
① ウェブサイト等による情報の発信	19
②-1 デジタル化の推進	20
②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化	21
(3) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進	22
① 学習機会の提供	22
②-1 ボランティア活動の支援	24
②-2 博物館支援者の増加	25
(4) 調査研究成果の反映	27
(5) 快適な観覧環境の提供	29
① 観覧環境の整備プログラム等の策定	29
② 一般来館者の満足度調査及び専門家の批判聴取	30
③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実	31
3. 我が国におけるナショナルセンターとしての機能の強化	32
(1) 調査研究成果の発信	32
(2) 海外研究者の招聘	33
(3) 保存修理者への研修プログラム	34
(4) 収蔵品の貸与	35
(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進	36
II 業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	37

I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1)-1 適時適切な収集

○方針

収集方針に沿って、各分野にわたる優れた仏教美術品を中心に、年度単位で収集すべき文化財を調査選定し、外部有識者の意見を踏まえ、優先度の高いものから収集する。なお、国立博物館が保管すべきと考えられる、特に優れた文化財の収集も視野に入れる。

○実績

①購入 0件

②決算額 1億3,900万円（17年度購入分2件に係る分割支払（17～19年度支払））

○自己点検評価

【見直し又は改善を要する点】

予算枠の制限もあって、希望する文化財の購入も年々難しくなっているが、情報を広く集めて新規購入に結びつけたい。

平成18年度新収品（事業実績統計表P1、30～38）

(1)-2 寄贈・寄託の受入れ及びその積極的活用

○方針

1) 寄贈

仏教美術作品のうち、当館の収蔵品で不足している分野の資料の補充を図り、陳列にふさわしい作品の寄贈を働きかけ、寄贈申し出に際しては、迅速かつ柔軟な対応に努める。

2) 寄託

普段からの諸社寺との交流や、特別展を通して密接な関係を有する所蔵者に働きかけ、文化財の保存と公開の両立を図りつつ、新たな寄託品の受入れに努める。

○実績

1) 寄贈 54件



五尊懸仏



金銅三鈷杵

2) 寄託 1,957件（うち国宝 55件、重要文化財 314件）（目標 1960件）

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

1) 大型コレクション所有者への継続的な働きかけが実を結び、従来展示に活用していた寄託品 14 件を含む 49 件の寄贈品を得ることができた。19 年度には、特別陳列「古玩逍遙」でその成果を展示する。

【見直し又は改善を要する点】

1) 税制面での環境整備を進める働きかけを今以上に活発に行っていききたい。

2) 引き続き文化財所有者との良好な関係を維持していくことに努め、より多くの寄贈・寄託をうけるようにしていきたい。

平成 18 年度新収品（事業実績統計表 P 1、30～38）

寄託品（事業実績統計表 P 48～49）

(2)-1 収蔵品の管理・保存

○方針

- 1) 収蔵品を理想的な環境で保存維持するため、保存環境の向上を図る。
 1. 文化財保存修理所を円滑に運用し、文化財の積極的活用を図る。
 2. 従来から行っている収蔵庫及び展示室における温湿度等の観察を継続し、年間を通じて、温度22～25℃、相対湿度60%に設定し、常時空調を実施する。また、展示替や特別展開催時に、照度の検査・調整を行うとともに、自記温湿度計を設置し、毎日の点検を実施する。
- 2) 防災・防犯に対する対策を図るとともに、職員の意識向上も図る。

○実績

1) 保存環境の向上

1. 文化財保存修理所の円滑な運用

文化財保存修理所の装飾分野及び彫刻分野で実施された修理について管理・指導した。

2. 環境管理

① 温湿度 展覧会場（本館、西新館、東新館）

空調実施時間 24時間（温度 22～24℃ 相対湿度 60%±5%）

※入館者が入ったときの温湿度管理については、空調センサーにより目標値を維持。

収蔵庫（東新館、地下回廊）

空調実施時間 24時間（温度 22～25℃ 相対湿度 60%）

② 照明 展覧会場において、陳列品保護のため80～100ルクスを保持した。

③ 空気汚染 空気環境測定を定期的実施し、外気の侵入をできる限り遮断する適切な環境を維持した。

2) 防災・防犯

- ・ 西新館耐震調査に基づく免震付き展示ケース（年次計画の初年次として長尺壁付ケース）を設置



- ・ 奈良市消防局との合同消防訓練の実施、館内消防設備の定期的点検の実施



- ・ 奈良市消防局主催の文化財防火ゼミナールへの協賛
- ・ 奈良県文化財保安連絡会議（奈良県警察本部主催）への協力
- ・ 危機管理マニュアルの更新

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 2) 免震付き展示ケースの設置により、災害から文化財を守る環境が整備された。

各収蔵庫、展示場の温湿度（事業実績統計表P51）

(2)-2 保存環境の調査研究の実施

○方 針

収蔵品（絵画・彫刻・工芸・書跡・考古）について保存カルテを作成する。

○実 績

保存カルテの作成件数 102件 （目標 100件）

（絵画 9件・彫刻 3件・工芸 12件・書跡 38件・考古 40件）

宮内庁正倉院事務所の協力により、平常展期間中の展示ケース内に外部から入る埃対策の調査を実施した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

西新館展示ケース内に入る埃対策の調査について、宮内庁正倉院事務所の協力を得て実施することができた。またこの調査で、埃粒子の元素分析データを得ることができ、これを防埃対策に活かすことができた。

保存カルテ作成件数（事業実績統計表 P 5 2）

(3)-1 収藏品等の修理

○方針

1) 修理の実施

- ①近年に購入等で収蔵した作品をできるだけ速やかに平常展等で活用するために、緊急度が高いものから計画的に修理を実施する。
- ②外部資金の導入等により、長期寄託品の修理を行う。
- ③文化財保存修理所における修理記録をもとに、修理資料のデータベース化のための調査を進める。

2) 国内外の博物館等の修理・保存処理の充実への寄与

国内外の博物館等の修理・保存処理の充実への寄与のため、当館文化財保存修理所の施設・設備及び体制の一層の充実を図り、外部からの修理・保存の依頼に応える。

○実績

1) 修理件数 27件（目標6件）

- ・収藏品修理件数 4件
- ・寄託品修理件数 21件
- ・外部資金として住友財団から助成による寄託品の修理 2件
- ・修理品目録のデータベース化に向けて資料収集及び整理活動を継続的に実施した。

2) 国内外の博物館等の修理・保存処理の充実への寄与

- ・当館文化財保存修理所における修理工房と連携し研修会を実施（1回）
「彫刻の修理とその光背について」
- ・当館文化財保存修理所での国指定以外の文化財修理（木彫）の材質調査を、京都大学生存圏研究所との共同研究交流を前提に行った。

3) その他

- ・研究紀要『鹿園雑集』に文化財修理所で行われた修理の報告を掲載し発表した。
- ・修理完了した法隆寺の「天蓋」、金峯山寺の「釈迦如来立像」を平常展で展示。



法隆寺「天蓋」

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 3) ・法隆寺の「天蓋」は伝存する我が国最古の遺例であり、修理完了に伴う展示は多くのマスコミ等による報道にも取り上げられ、平常展の充実に寄与したとともに、当館修理事業を広くアピールできた。

【見直し又は改善を要する点】

- 1) ・収藏品の修理は予算の都合上、展示に用いるための応急修理のみとなった。
・19年度より、文化財保存修理所の設置後5年間分の修理品目録のデータベース化に着手する。

修理件数表（事業実績統計表P53）

修理概況（事業実績統計表P86～87）

文化財修理データのデータベース化（事業実績統計表P92）

(3)-2 科学的な技術を取り入れた修理

○方針

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れ、作品の材料・技術の解明及び修理指針に役立てる。

○実績

- ・ 絵画の寄託品修理にあたり、修理前及び修理中に行った赤外線、紫外線の写真撮影の光学的調査の情報をもとにして協議し、作品の材料、技術の解明及び修理指針の検討を行った。
- ・ 葛城市二塚古墳出土の鉄製を中心とした文化財修理について、元興寺文化財研究所と共同で、科学的保存修理の調査を進めた。
- ・ 五條市猫塚古墳出土の甲冑片、武具などのX線撮影及び実測図作成を行い、科学的保存修理に向けての検討に役立てた。

○自己点検評価

【見直し又は改善を要する点】

修理前に行う材質調査などにかかる科学的修理の向上のため、文化財保存修理所及び他機関と協力し、より一層連携を強めていく。

(4) 収集・保管のための調査研究

○方針

- ・従来からの収蔵品について継続的に調査研究を実施する。なお、新収蔵品については具体的な公開等を見越して重点的にこれを行う。
- ・調査研究の成果を、展覧会等を通じて公表する。
また、印刷物やインターネットを活用して調査研究の方法を公開し、広く斯界の学術的発展に資する。

○実績

- 1) 収蔵品に関する調査研究
 - ・五條市猫塚古墳出土品に関して、細かな観察に基づく再検討を実施した。
- 2) 南都諸社寺に関する計画的な調査研究
 - ・東大寺戒壇院四天王像（国宝）及び法華堂執金剛神像（国宝）の総合的調査を実施した。19年度に成果を刊行する予定である。
 - ・春日大社おん祭に関する文化財の調査を実施した。
- 3) 科学研究費補助金による調査研究

①若手研究(B)「奈良・平安時代墳墓の被葬者に関する基礎的研究」（研究代表者 吉澤 悟）
古代火葬墓を対象にして、遺骨の形質人類学的な鑑定を進めると共に、墳墓構造や骨蔵器の材質などの考古学的情報を整理して、被葬者像の検討に必要なデータベースを作成することを目的とする。 形質人類学の専門家と共に人骨の鑑定を進め、関連情報を併せて整理・検討を行った。さらに、昨年度に続いて人骨や火葬墓、被葬者に関する研究などの情報収集に努め、データベースや資料集成の作成に盛り込んだ。
②若手研究(B)「統一新羅期の道具瓦集成」（研究代表者 岩戸晶子）
古代日本における瓦の生産・使用を考える際、朝鮮半島とのつながりは意識されてきたが、一方で道具瓦の様相はほとんど語られてこなかったため、韓国・統一新羅期の鬼瓦・鴟尾といった道具瓦の資料集成と型式分類を行う。 発掘調査報告書を中心に検討対象となる資料の抽出及び集成を行い、協力者を募った。
- 4) 保存・修理に関する調査研究
 - ・帝塚山大学と斑鳩地区出土の古瓦についての共同研究を継続実施した。
- 5) 客員研究員等による調査研究
 - ・絵画（仏画・中国朝鮮絵画）、工芸（漆工染織）、考古（古瓦）、彫刻（仏教彫刻）の部門ごとに客員研究員を招聘し、収蔵品に関する継続的な調査及び特別展に関する調査を共同で行った。
- 6) 仏教美術の光学的調査研究
 - ・東京文化財研究所と共同研究協定を延長し、薬師寺吉祥天像などの調査を実施した。19年度には成果の一部を刊行する予定である。
- 7) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究
 - ・「第58回正倉院展」では、東アジア文化圏の中で正倉院宝物の意義を考察した。また、「正倉院学術シンポジウム」では中国及び韓国から研究者を招へいし、研究発表及び意見交換を行った。
 - ・韓国・慶州博物館、中国・上海博物館、中国国家博物館、中国・河南博物院との学術交流
慶州博物館から2名、上海博物館から3名研究員を受け入れた。
当館からは慶州博物館へ1名、上海博物館へ3名、中国国家博物館へ1名を派遣し、それぞれ所蔵作品について調査研究を実施した。
- 8) 仏教美術写真収集及びその調査研究
特別展「大勸進 重源」、特別陳列「やまとの匠」等当館開催の展覧会時収集の作品についての写真収集及びその調査研究を実施した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 2) 聖武天皇 1250 年回忌の記念事業との一環として、東大寺執金剛神像（国宝）の X 線調査や成分調査を実施し、近隣社寺との良好な関係持続に寄与した。
- 5) 東京文化財研究所とは 16 年度より当館が所蔵する仏教絵画の光学的調査を共同で実施しており、今年度は共同協定を継続し、19 年度の文化財研究所との統合に向けて、より一層の協力体制を敷くことができた。
- 7) 中国及び韓国の 4 つの博物館と学術交流を継続し、研究員交流を中心に行った。

【見直し又は改善を要する点】

- 3) 科学研究費補助金の獲得件数の向上のために、研究員に対して積極的に申請を行うよう働きかけを行う。また、館全体で科学研究費補助金の獲得に向けてワーキンググループを組織する。

調査研究テーマ一覧（事業実績統計表 P 9 5）

科学研究費補助金による調査研究（事業実績統計表 P 9 7）

客員研究員一覧（事業実績統計表 P 9 8）

2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

① 平常展

○方針

当館は、国内における唯一の仏教美術を専門とする博物館であり、極めて質の高い文化財を収蔵していることから、こうした文化財を活用するために、特に平常展を重視し、テーマ性を設けて幅広い年齢層を対象とする魅力ある質の高い展示を実施する。

- ・本館においては「仏教美術の名品」として彫刻等の優れた文化財を一般に分かりやすく展示する。
- ・西新館では、絵画・書跡・工芸・考古の各部門の展示替えを定期的に行い、より変化に富み、興味を引く展示を目指す。特に、特別陳列等の企画性あるテーマ展を時期に合わせて開催し、より質の高い深化した情報を提供する。

○実績

○総入館者数 47万7,638人（平常展13万7,739人、特別展33万9,899人）

- 1) 開催期間 4月1日～3月31日（315日間）
平常展のみの開催期間 230日間
- 2) 会場 本館、東・西新館
- 3) 陳列品総件数 1,014件（うち国宝 73件、重要文化財 344件）
本館 452件
東新館 298件
西新館 264件
- 4) 陳列替回数 20回
- 5) 入場料金
9月30日まで 一般 420円（210円）、高校・大学生 130円（70円）、小・中学生及び70歳以上 無料
10月1日から 一般 500円（400円）、高校・大学生 250円（200円）、小・中学生及び70歳以上 無料
入場料金割引サービス（割引後は団体料金相当）
 - ・子どもといっしょ割引（子ども（中学生以下）と一緒に平常展観覧の方に割引）
 - ・レイト割引（冬休み（12月1月）及び夏休み（7月8月）の開館時間延長日の17時以降に平常展観覧の方に割引）※（ ）内は20人以上の団体料金

6) 本館「仏教美術の名品」

- ・リニューアル（展示レイアウト及び照明増設）を実施した。
- ・「注目の逸品」展示を新設
- ・講演会等 8月20日 サンデートーク「リニューアルされた本館展示」
美術室長 岩田茂樹



7) 特別陳列等

① 特別陳列「やまとの匠—近世から現代まで—」（6月10日～7月9日 東新館）

陳列品件数 149件

講演会等 6月24日 公開講座「近世大和の文化」 春日大社権宮司 岡本彰夫

内容 千三百年に及ぶ奈良の長い歴史の中で、最も忘れられがちだった奈良の近世と近代の工芸品を、今も息づく現代の匠の作品とあわせて展示する初めての試みであった。



②親と子のギャラリー「探検！仏さまの文様」（7月22日～8月20日 東新館）

陳列品件数 20件（うち国宝10件、重要文化財7件）

講演会等 7月23日 サンデートーク「近づいて見る文様の世界」

列品室研究員 宮崎幹子

内 容 仏像や仏具といった仏教美術は、植物や動物・風景など色々なかたちの文様で美しく飾られている。今展示では最新技術で撮影されたデジタル画像を使って、作品そのものを展示するだけではなく、文様の細部までを併せて紹介した。



③特別陳列「復元模写完成記念 国宝 子島曼荼羅」（7月22日～8月20日 東新館）

陳列品件数 2件（うち国宝1件）

内 容 平安仏画屈指の名品である子島曼荼羅を、このたび新たに完成した精巧な復元模写とともに展示し、原本がもつ魅力を再発見し、あわせて模写製作過程や意義を広く紹介した。

④特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術」（12月9日～19年1月21日 東新館）

陳列品件数 58件（うち重要文化財10件）

講演会等 12月10日 サンデートーク「春日宮曼荼羅」 情報サービス室長 中島 博

12月16日 公開講座「おん祭りと雅楽」

南都楽所楽頭・奈良大学名誉教授 笠置侃一

19年1月13日 公開講座「春日信仰の美術」 工芸考古室研究員 清水 健

内 容 春日若宮おん祭りが例年12月17日に執り行われるのに因み、若宮神やおん祭りに関わる美術工芸品・歴史資料、舍利や地蔵菩薩などを展示し、春日信仰の広がり と多様性を紹介した。



⑤特別陳列「お水取り」（2月10日～3月18日 東新館）

陳列品件数 69件（うち国宝1件、重要文化財17件）

講演会等 2月18日 サンデートーク「お水取り」 教育室長 西山 厚

3月18日 サンデートーク「大観音と小観音」 企画室長 稲本泰生

内 容 奈良に春を呼ぶ東大寺二月堂の「お水取り（正しくは修二会）」にあわせ、関連のある絵画・典籍文書・工芸品などを展示し、あわせて二月堂の内陣の様子を再現した。



8) 特集展示

①「法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像」（4月1日～7月9日 本館）

陳列品件数 2件（うち重要文化財2件）

内 容 法隆寺伝法堂の屋根葺替工事に際して寄託された、寺内では非公開である奈良朝仏像の名品、阿弥陀三尊像を展示した。

②「新薬師寺伝来の十一面観音像」（4月1日～7月9日 本館）

陳列品件数 2件（うち重要文化財2件）

内 容 近年館蔵品となった新薬師寺伝来の木造十一面観音像と、新薬師寺現蔵の木造十一面観音像を併せて展示し、往時の姿をしのんだ。

③「宝器理納の流れ—副葬・鎮壇・奉納」（6月24日～7月30日 西新館）

陳列品件数 8件（うち国宝1件、重要文化財2件）

内 容 古墳出土品から寺院跡出土の鎮壇具まで、鏡・玉・太刀などの宝器を埋納した歴史的な流れを紹介した。

④「春日龍珠箱とその周辺—重要文化財指定に寄せて—」（6月24日～7月30日 西新館）

陳列品件数 9件（うち重要文化財5件）

内 容 今年重要文化財に指定された当館蔵春日龍珠箱を中心に、館蔵・寄託品より春日信仰・龍神信仰にちなんだ工芸品を特集して展示した。

⑤「天平追慕—聖武天皇1250年忌に寄せて—」（9月5日～10月1日 西新館）

陳列品件数 21件（うち国宝1件、重要文化財2件）

内 容 今年崩御より1250年を迎えた聖武天皇をしのび、館蔵・寄託品より聖武天皇の生きた奈良時代（中国・唐時代）の工芸品、正倉院模造を特集的に展示した。

9) 特別出陳

①「木心乾漆薬師如来立像」（4月1日～7月9日 本館）

陳列品件数 1件（国宝）

講演会等 4月12日 ギャラリートーク「唐招提寺金堂薬師如来立像」 企画室長 稲本泰生

11月19日 サンデートーク「唐招提寺の廬舎那仏を運ぶ」

日本通運株式会社技術顧問 海老名和明

内 容 12年度より唐招提寺から当館に寄託され、特別出陳として本館中央に展示した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 6) ・本館リニューアルに伴い、飛鳥時代以来の仏教美術を高い水準で展示することができた。また、「注目の逸品」展示の新設、「奈良にはふるきほとけたち」と題した平常展の広報活動を行い、特別展にも引けをとらない平常展の魅力発信に努めた。
- ・本館リニューアルのための閉鎖時、本館附属棟の坂本コレクション「中国古代青銅器」を無料公開し、本館閉鎖の不便さを和らげるよう努力した。
- 7) ・特別陳列「やまとの匠」は、近世から現代までの奈良工芸品を取り上げた初めての試みであり、今まで欠落しがちだった部分に光をあてた展示で、将来の研究につながると好評であった。
- ・親と子のギャラリー「仏さまの文様」は作品展示のみならず、高精細デジタル画像で作品の細部も一緒に見られる展示を行い、子どもにも分かりやすい展示を実現した。

【見直し又は改善を要する点】

- 5) 自己収入確保のため、平常展の入場料金を値上げした。料金値上げの負担増を少なくするため、新たなサービスとして「子どもとっしょ割引」、「レイト割引」、無料観覧日の増加（5月18日、2月3日）を実施し、今後は新サービスの利用者増に向けて、さらに広報を行う必要がある。

入館者数・入場料収入（事業実績統計表P100～102）

展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置（事業実績統計表P103）

平常展（事業実績統計表P122）

② 特別展

○方針

仏教美術を中心とした質の高い展覧会を年3回程度開催する。中でも国民的関心が高い恒例の「正倉院展」は、開催に向けて十分な準備をする。

○実績

特別展総入館者数 33万9,899人（目標 19万人）

1) 特別展・共催展 4回

- ①特別展 御遠忌800年記念特別展「大勸進 重源—東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出—」（特別展）
（4月15日～5月28日）
- ②特別展 北村昭齋—漆の技—（特別展）（9月2日～10月1日）
- ③特別展 第58回正倉院展（特別展）（10月24日～11月12日）
- ④海外展 観音菩薩（スイス・リートベルク美術館）（19年2月18日～4月9日）

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1) ①重源没後 800 年の節目の年にあわせて、重源の生涯と一大事業を振り返る展覧会を開催できた。
- ②「北村昭齋」では、特別陳列「やまとの匠」と併せて奈良の近世から現代の工芸品に新たに目を向け、近世以降の奈良文化に注目した情報を発信できた。
- ③「正倉院展」では積極的に広報活動した結果、過去最高の 28 万 3,515 人の入場者があった。また会期中には多くのイベントを実施し、秋の奈良観光の中心となる役割を果たした。

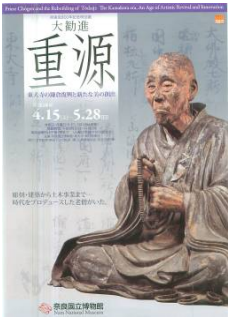
【見直し又は改善を要する点】

特別展開催にかかる輸送費や旅費等の支出経費の削減のため、改めて見直しを行う。

入館者数・入場料収入（事業実績統計表 P 100～102）

特別展（事業実績統計表 P 122～123）

御遠忌 800 年記念特別展「大勸進 重源—東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出—」（特別展）



○方針

兵火に焼けた東大寺再建の大勸進として諸堂・諸仏の再興に尽力したのが、当時すでに六十歳を超えていた俊乗房重源。重源没後八百年を記念し、重源が生み出した各種の美術作品、関連資料を一堂に会し、その文化史上の巨大な足跡を振り返る。

- 1) 開会期間 4月15日～5月28日
- 2) 会場 東・西新館
- 3) 主催 奈良国立博物館、東大寺、朝日新聞社
- 4) 陳列品総件数 149件
(うち国宝15件、重要文化財71件)
- 5) 入館者数 4万1,813人(目標2万人)
- 6) 入場料金 大人1,000円 高校・大学生700円
小・中学生無料
- 7) 担当 岩田茂樹、内藤榮 ほか12人
- 8) アンケート結果 満足度 82%

展覧会の内容

「南都炎上」、「入唐三度聖人」、「東大寺復興」、「行基への尊崇」、「別所の経営」、「重源と舍利信仰」、「重源と阿弥号・同号衆」、「宋代美術の移植」の構成で展示し、重源の肖像や重源が生み出した美術作品を展示。



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・重源の一大事業を振り返る展覧会として、多くの社寺や文化財調査及び海外調査を基にした展覧会を開催できた。またその調査により判明した「阿弥陀大仏手」や「三角五輪塔」に関する新事実を、展覧会図録や報道機関に発表した。
- ・東大寺からの申入れによる「重源上人坐像」(国宝)の前での毎日2回の法要は入館者にも公開し、通常の展覧会とは別の雰囲気浸れたと来館者にも好評を得た。
- ・展覧会図録購入者に対し、東大寺僧侶によるサイン会を行い、図録販売の促進と入館者の満足度向上に努めた。
- ・小中学生の入場料金を無料とすることによって、修学旅行生や近隣小中学生が通常なかなか見ることができない文化財に気軽に親しむ機会の増加に配慮した。
- ・秋篠宮同妃両殿下にご来館いただき、展示概要の説明及び会場内では重源上人坐像(4体)などを研究員が解説した。

【見直し又は改善を要する点】

- ・展覧会が知れ渡ってきた会期後半になってから入場者が増加傾向になった。5月初旬のゴールデンウィーク中の入場者増加や修学旅行生等増加を実現するためには、広報活動を早めに行うことが必要であろう。

「北村昭齋—漆の技—」（特別展）



○方針

「螺鈿」の重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝と、「漆工品修理」の選定保存技術保持者の二つの認定をもつ北村昭齋氏の仕事の全貌を、創作・修理・復元模造のなかから主要な作品を集めて展覧する。

- 1) 開会期間 9月2日～10月1日
- 2) 会場 東・西新館
- 3) 主催 奈良国立博物館、朝日新聞社
- 4) 陳列品総件 96件
(うち国宝1件、重要文化財6件)
- 5) 入館者数 1万4,571人(目標1万人)
- 6) 入場料金 大人700円、高校・大学生400円、
小・中学生無料
- 7) 担当 鈴木喜博、北澤菜月 ほか12名
- 8) アンケート結果 満足度 96%

展覧会の内容

漆芸作家として、また文化財の修復家として、奈良の地で活躍している北村昭齋氏の主要な作品を集めて展示する。本展覧会は、日本の漆の文化を世界に発信する現代的意義をあわせ持ち、氏が生まれ住む奈良の地で活躍することの重要性について振り返る機会を示す。



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・ 当館展示の主要テーマである仏教美術から離れた新しい企画であり、また奈良在住の漆芸家で、かつ文化財修復家でもある北村昭齋氏の作品や修理品は観覧者に新鮮な驚きを与え、本展示の今日的意義を理解してもらうことができた。
- ・ 漆芸作家かつ修復家の北村昭齋氏と展示企画者との間で協議を何度も重ねて、高度な展示プランを構築することができた。
- ・ 古美術品の展示と同等の照明効果を狙ったため、デパートで行われる伝統工芸展とは全く異なる、落ち着いた雰囲気生まれ、従来の伝統工芸展の展示照明を見直すきっかけに寄与した。
- ・ リピーターが数多く生まれ、何回も足を運んだという観覧者も少なくなく、魅力ある展示作品とゆったりとした展示環境に、観覧者の満足度は高かった。

【見直し又は改善を要する点】

- ・ 4週間という短い展示期間であったが、開館後の観覧者の関心度をみると、あと2週間ほどの展示期間があればより多くの観覧者が生まれたのではないと思われる。
- ・ 関東・東京方面の観覧者も、ある程度の人数を確保することができたが、さらに広報を徹底すれば、北村作品の魅力を知ってもらう機会がさらに広がったのではないと思われる。

「第 58 回正倉院展」(特別展)



○方針

昭和 21 年から開始され、国民的行事として定着している恒例の正倉院展は、正倉院宝庫の宝物点検の際に宮内庁から例年約 70 点の貸与を受け、当館にて公開展示するものであり、本年度で 58 回目を数える。奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として例年多数の入館者があり、その中には固定的ファンも多く、奈良朝文化に一定の知識を有する研究者に対しても十分な満足感を与える展示を目指す。

また最近の新しい調査結果を反映させる内容となるように配慮する。

- 1) 開会期間 10月24日～11月12日
- 2) 会場 東・西新館
- 3) 主催 奈良国立博物館
- 4) 陳列品総件数 68件(うち初出陳13件)
- 5) 入館者数 28万3,515人(目標16万人)
- 6) 入場料金 大人1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
- 7) 担当 梶谷亮治、内藤 榮 ほか12名
- 8) アンケート結果 満足度 67%

展覧会の内容

聖武天皇と光明皇后御遺愛品の品々をはじめ、東大寺ゆかりの儀式具・荘厳具、仏具、献物几・献物箱等を陳し、正倉院宝物の全容が概観できる内容とした。今回は特に聖武天皇の崩御から 1250 年の記念の年にあたり、16 年ぶりの公開となる「国家珍宝帳」をはじめ、聖武天皇ゆかりの品々を展示した。



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・ 聖武天皇の崩御から 1250 年にあたる今年の正倉院展は、宮内庁正倉院事務所の協力により、例年 17 日間のところ 20 日間開催できた。また読売新聞社の全面的な広報協力を得ることができ、過去最高の入場者数を記録した。
- ・ フォルテピアノコンサートやオペラ公演・お茶会・留学生の日など関連行事の開催や、外国人向け及び子ども向け音声ガイドの導入など、幅広い層にアピールでき、参加者や利用者からは好評であった。
- ・ 混雑緩和のため、会場入口 3 箇所及びホームページで混雑状況と待ち時間を表示した。また最寄りの交通機関である近鉄奈良駅と JR 奈良駅とも連携して混雑状況表示を行い、比較の入場しやすい時間帯を告知した。
- ・ スムーズな流れを実現するため、定時的な入場制限と外部スタッフによる人員整理を行い、展覧主旨と主要作品を記載した会場内見取図を会場の外で事前配布した。また、音声ガイド解説展示品で混雑しないよう、展示品配置を考慮した。
- ・ 皇太子同妃両殿下にご来館いただき、正倉院展の概要説明及び会場内では聖武天皇が愛用したといわれる七条刺納樹皮色袈裟などを研究員が説明した。
- ・ 自記記録温湿度計を 1 ヶ所設置し温湿度管理に努め、この他にデータロガー(電子記録式温湿度計測器)を 12 ヶ所に設置し、詳細なデジタルデータを得た。今後の環境管理の為のデータとなる。

【見直し又は改善を要する点】

- ・ 比較的快適に鑑賞できる時間帯を勧める広報を積極的に行い、旅行会社には混雑時間帯をはずしてもらおうよう協力を行っていく。また列ができやすい作品等の周辺では誘導を実施するなどスムーズな流れを作る必要がある。

「観音菩薩」(海外展)



○方針

当館と研究員交流等親密な関係をつづけているスイス・リートベルク美術館での新館オープンを記念する特別展を共催により開催し、本展を通じ、かねてより東洋美術に関心の深いチューリッヒならびにスイスの人々に、日本文化の奥深さと魅力について紹介する。

- 1) 開催期間 19年2月18日～4月9日
- 2) 会場 スイス・リートベルク美術館
- 3) 主催 リートベルク美術館、奈良国立博物館
- 4) 陳列品総件数 37件
(うち国宝1件、重要文化財20件)
- 5) 入館者数 27,078人(19年3月31日まで)
- 6) 入場料金 16フラン、割引券12フラン
- 7) 担当 岩田茂樹、北澤菜月 ほか12名

展覧会の内容

わが国における観音菩薩は聖観音を中心としてやがて密教や浄土教との関わりのなかで十一面・千手・如意輪・准胝・馬頭・不空羂索の六観音が成立・展開し、華やかな相をみせるにいたる。本展ではそれらの諸尊のなかから代表的な作品を選び、美術作品としてのすばらしさと、その仏教的意義の双方について展観した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・ リートベルク美術館の新館オープニングを記念する展覧会として開催された「観音菩薩」は、リートベルク美術館の広報協力もあって、チューリッヒ市民およびスイス国民の広範な関心を喚起し、一日平均の入場者数は同館の史上最高を記録した。
- ・ 報道機関等の関心も高く、テレビ・ラジオ・新聞の取材件数が相当数にのぼった。チューリッヒ内の局にとどまらず、ジュネーブなどの国内の大都市からの取材、またはオーストリアやドイツ等の隣国からの取材もあり、同展の注目度はヨーロッパにおいて広範なひろがりを獲得した。
- ・ 会期中、関連するテーマによる講演会や日本文化を紹介する生け花や浄瑠璃、座禅などのイベントも数多く開催され、広く日本についての関心を惹起することができた。
- ・ 若年層への広報及び普及活動を目的に、不定期に小学生等を対象としたレクチャーを教育担当のスタッフが充実した内容で実施した。
- ・ 中央制御室における温湿度制御の状況を週単位でチェックするとともに、日本から持参した温湿度計で毎日チェックを行い、作品の保存環境を入念に調査することができた。その結果、作品の保存に万全を期することができた。
- ・ ディスプレーの設計及び施工について、それぞれの作品を良い環境で完全に鑑賞できるときわめて評判が良かった。

【見直し又は改善を要する点】

- ・ 題箋が英語・独語の二カ国語で書いた点は良かったが、作品名称や時代、素材等の最低限の情報のみで、もう少し詳細な解説を添付すべきであった。
- ・ 絵画の展示ケースが仮設ケースで照明を内蔵せず、外部からのスポット照明のみであったため、反射してやや見にくい状況であった。

③ 展覧会広報活動の取組み

○方針

来館者等へ展示品、展覧会及び博物館に関する様々な情報を広く国民に提供し、国立博物館に対する理解の促進を図るため、広報活動を展開する。

- ・入館者を対象とした博物館だよりの発行（年4回）
- ・電子メールマガジンによる情報の発信
- ・「催事案内」の発行、特集陳列チラシの作成・配布
- ・メディア及び公共交通機関との協力による広報の充実
- ・小中学生に対する文化財理解の普及のためのコンピュータ画像の積極的利用

○実績

1) 広報誌等

- ・奈良国立博物館だより

①発行回数・時期 年4回（4月、7月、10月、1月）（目標 年4回）

②発行部数 2万部（4月、7月、1月）、4万部（10月）

入館者が多数見込まれる正倉院展にあわせて印刷部数を倍増

③料金 無料

④配布先 博物館・美術館・大学・研究所等、入館者（郵送希望者には郵送料自己負担で対応）

- ・奈良国立博物館リーフレット

①発行部数・時期 日本語 年1回（10月）

外国語（英語・韓国語・中国語・仏語・独語・西語） 年1回（10月）

※財団法人東芝国際交流財団の助成により作成

②発行部数 日本語10万部、英語1万部、韓国語8,000部、中国語5,000部、仏語・独語・西語 各2,000部

③料金 無料

④配布先 入館者

- ・奈良国立博物館展示案内

①発行回数・時期 年2回（5月、8月）

②発行部数 10万5,000部

③料金 無料

④配布先 入館者

2) その他の広報活動

- ・特別展（大勳進重源、北村昭斎、正倉院展）における新聞社の広報協力・後援

正倉院展では、特集紙面及び連載企画や電飾看板による広報・交通機関への広告掲載・旅行代理店との連携・正倉院フォーラムの開催を、読売新聞社の協力により実施した。

- ・近鉄奈良駅構内での博物館紹介、展覧会ポスターの常時掲示。また、特別展におけるポスターの駅貼及び車内吊り広告等に協力依頼を実施した。

- ・タクシー乗務員等及びホテル関係者を招待し、特別展の解説を実施。



- ・奈良県立美術館と広報相互協力として、互いの敷地内に看板を設置し相乗効果を図った。



- ・奈良交通路線バスへの特別展広告看板掲載
- ・ウェブサイト日本語と英語で、平常展・特集陳列・特別展の展示案内及び出陳品を掲載した。また、博物館案内（日本語・英語・中国語・韓国語・仏語・独語・西語）をウェブサイトに掲載した。
- ・電子メールマガジンによる博物館情報を配信（登録件数2,826件）
- ・特別展「大勸進重源」では東大寺入場券で割引制度、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では春日大社で配布するチラシで割引制度を実施した。
- ・特別展や特別陳列・平常展リニューアルに伴うポスターを作成、博物館及び美術館・近隣商店街等に配布。
- ・「大勸進重源」では秋篠宮同妃殿下、「正倉院展」では皇太子同妃殿下のご視察に伴うマスコミ各社からの取材に対応した。
- ・博物館シンボルマークをあしらった館旗を作成し、掲揚式を行った。
- ・春と秋の年2回、それぞれ東大寺及び興福寺僧侶による展示品の仏像などを供養する法要を実施した。本来おまつりの対象である展示品を、法要を通して奈良に文化が活着ていることを感じてもらうため、一般の観覧者にも公開で実施。



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1) 博物館だよりには「平常展のみどころ」や「注目の逸品」を研究員が紹介し、特別展や特集陳列とともに、平常展の積極的な広報活動に努めた。
- 2) ・最寄り駅である近鉄奈良駅とは、博物館ポスター常時掲示・特別展前売り券取扱い・正倉院展期間中の混雑状況表示など、良好な関係を維持できた。
 - ・タクシー乗務員及びホテル関係者への解説は毎回100人を超える参加者があり、近隣ホテルや交通機関と連携でき、かつ観光客等を中心に博物館を広く紹介できた。
 - ・メールマガジンとしてダイレクト配信を毎月1回程度行い、個人向けのみならず近隣小中学校に対しても配信を開始した。
 - ・特別展「北村昭斎」では1万人目、特別展「正倉院展」では10万人目と20万人目入場者に対して、記念品贈呈式を行い、報道機関に広報することによりさらなる入場者増を目指した。

特別展（事業実績統計表P122～123）

広報刊行物（事業実績統計表P126）

(2) 情報発信機能の強化

① ウェブサイト等による情報の発信

○方針

- ・ウェブサイトへのアクセス件数が増加するよう内容の充実を図る。
- ・館蔵品の写真並びに研究成果の公開の充実を図る。

○実績

- ・ウェブサイトのアクセス件数 124万9,608件 (17年度 98万6,133件)
- ・携帯電話端末用ウェブサイトを作成し公開を開始し、手軽に博物館情報を手に入れられる環境を整えた。
- ・当館保有の文化財の情報及び写真を検索できる写真検索システムを写真・文字を含め、2,093件更新した。
- ・研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、当館の研究事業を広くアピールした。
- ・展覧会図録等出版物の情報を掲載し、検索できるようにした。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

ウェブサイトは、展示やイベント情報、「お知らせ」を数多く更新した。「お知らせ」には、博物館の敷地内で生まれたカルガモが泳ぐ風景を掲載するなど工夫した結果、アクセス件数も伸びて、関心をもたれるサイトを実現した。

ウェブサイトのアクセス件数（事業実績統計表P128）

②-1 デジタル化の推進

○方針

- 1) ・ ホームページに掲載中の写真検索システムの個別データを約2,000件追加する。
・ 収蔵品についての文化財情報データの作成、画像ファイルの蓄積を図る。
- 2) ・ 収蔵品をデジタル高精細画像により入館者への情報提供及びインターネットでの公開を行う。
・ 収蔵品のうち国宝について5ヶ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像を提供する。
- 3) デジタル高精細画像を活用し、有料画像提供の推進を図る。

○実績

- 1) 18年度にデジタル化した文化財の件数 3,830件
うちホームページに公開した写真検索システムへの追加件数 2,093件
- 2) ・ 重要文化財の高精細デジタルアーカイブ化のため準備を行い、19年度に発表予定である。
・ コンピュータ端末によるデジタル仏像ミュージアム（「ぶつぞう入門」「奈良の社寺と仏像」）を地下回廊（入場無料ゾーン）で常時公開
・ 西新館学習コーナーに国宝を高精細画像で閲覧できるシステムを常時公開
・ 17年度刊行した『国宝絹本着色十一面観音像』の画像データ及び解説を公開するためシステム構築を行った。公開は19年度予定である。
- 3) 収蔵品のデジタル画像データを有料販売するため、日本写真印刷と業務提携を行った。インターネット上での販売開始は19年度予定である。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 3) デジタル画像の有料販売に向けて日本写真印刷と業務提携ができた。19年度からの販売開始へと進捗した。

【見直し又は改善を要する点】

- 1) 写真検索システムは、所蔵作品のほか、寄託品については、すべての文化財写真を掲載しきれていないため、さらに公開追加件数の増大に努める。
- 2) 重要文化財の高精細デジタル画像は体系的にデジタル化しているため、18年度は公開可能作品がなかったが、19年度は公開予定である。

収蔵品のデジタル化件数（事業実績統計表P128）

②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化

○方針

- ・美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図り、積極的に公開する。
- ・西新館の観覧者向け図書コーナーの充実を図る。

○実績

1) 収集

件数 写真原板 8,406件（目標3,000件）
図書 1,930冊（和書 1,590冊、漢書 215冊、洋書 125冊）

2) 公開

①公開場所 仏教美術資料研究センター、西新館学習コーナー

②公開件数 図書 6万1,450冊
（仏教美術資料研究センター 6万1,131冊、西新館学習コーナー 319冊）

写真 9万9,508枚

③利用者数 368人（仏教美術資料研究センター）

④貸出件数 閲覧のみ

⑤検索システム 館内ネットワークの図書検索システムに、検索可能図書を随時更新した。また国立情報学研究所電子図書館サービスに、検索可能図書を随時更新した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・写真原板、図書ともに着実な資料の収集を進め、仏教美術資料研究センター及び西新館学習コーナーでの公開を行い、研究者及び一般入館者への資料提供を行った。

情報資料の収集（事業実績統計表P128）

特別観覧件数（事業実績統計表P129）


(3) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進

①学習機会の提供

○方針

- 1) 文化財の理解を促進するため、公開講座やサンデートーク、夏季講座、シンポジウムなどを実施する。
- 2) 児童生徒を対象とした総合的・体験的な学習を受け入れ、児童生徒に文化財への関心を持たせ、理解を深める。
- 3) キャンパスメンバーズ制度等を活用して、広く大学等と連携する。

○実績

- 1) ①公開講座 12回 (参加者数 1,586人、担当した研究員数延べ 7人、外部講師 7人)
 - ②ギャラリートーク・サンデートーク 12回 (参加者数 671人、担当した研究員数延べ 10人、外部講師 2人)
 - ③夏季講座 8月9日～11日 (3日間)
(参加者数 486人、担当した研究員 4人、外部講師 6人)
奈良女子大学21世紀COEプログラムと共催
- 
- ④正倉院学術シンポジウム 10月29日
(参加者数 160人、担当した研究員数 2人、外部講師 6人)
 - ⑤国際研究集会「高麗時代の美術」 2月3日 (参加者数 61人、担当した研究員数 1人、外部講師 3人)
- 2) ①特別展「大勸進 重源」「北村昭斎」において、中学生以下の入場料金を無料とした。
 - ②平常展割引制度として「子どもといっしょ割引」を始め、家族等で博物館を訪ねてもらい、文化財に親しむ機会の増加を図った。
 - ③修学旅行生等を対象としたボランティアによる文化財の案内及び解説を実施した。
・仏像の見分け方クイズ、展示会場及び講堂にて文化財の解説を実施
- 
- ④近隣の小中学校に対して、博物館情報を定期的にメール配信した。
 - ⑤特別展「第58回正倉院展」における子供向け音声ガイドの制作 (1,492件貸出)
- 3) ①キャンパスメンバーズ (大学会員制度) を導入し、12校の申込があった。
 - ②「留学生の日」 (11月1日実施) として、留学生を対象に平常展及び特別展「第58回正倉院展」を入場無料とした。同時に「着物で正倉院展を見よう」を実施し、留学生を対象に着物を無料で貸出し、着物姿で「正倉院展」を鑑賞し、お茶のサービスを行った。
- 
- ③インターンシップ学生の受入を実施した。
 - ・8月1日～19年3月31日 (週1回) 奈良女子大学 1名
 - ・8月28日～9月8日 立命館大学 3名
 - ・10月1日～12月28日 (週1回) 神戸大学大学院 1名
 - ④奈良女子大学との連携講座 (「日本アジア古典資料論」) を実施
期間 4月1日～19年3月31日、担当した研究員 1人、参加者数 2人

⑤神戸大学との連携講座（「博物館資料論」、「文化遺産活用論」）を実施

期間 4月1日～19年3月31日、担当した研究員 2人、参加者数 2人

⑥放送大学の面接授業の実施

期間 2月15日、16日、担当した研究員 1人、参加者数 160人

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1) ・ギャラリートークをサンデートークに変更し、スライド等で作品の細部まで解説できる講堂を会場として、毎月第3日曜日に実施することにし、聴講者から好評を得た。また施設の有効活用にもつながった。
 - ・夏季講座は奈良女子大学21世紀COEプログラムとの初の試みである共催で、聖武天皇1250年記念「聖武天皇と〈奈良〉」をテーマに実施し、定員を超える応募者があり、外部会場での開催となった。
 - ・正倉院学術シンポジウムでは海外からも講師を招き、充実した内容となった。また平成19年度には書籍刊行を予定している。
- 2) ・特別展「大勸進 重源」「北村昭斎」において、入場料金を無料とする案内を、近隣の小中学校を中心に積極的に広報活動を行った。
- 3) ・学生が気軽に歴史や文化に触れることができる「キャンパスメンバーズ制度」の導入にあたり、多くの大学に対し積極的に働きかけを行った結果、12校の申込があった。

【見直し又は改善を要する点】

- 1) 公開講座やサンデートークの参加者数が少ない回があるため、ホームページや館内掲示等を活用して、積極的な広報活動に努める。
- 2) ② 新たな割引制度である「子どもといっしょ割引」及び「レイト割引」を積極的に広報し、割引制度の周知を図るとともに、入館者数増加へとつなげる。
 - ④ 平成18年8月より近隣小中学校に対してメールマガジン配信で展示案内を行ったため、当館での教員向けの講座は実施しないこととした。

学習機会の提供（事業実績統計表P131）

児童生徒を対象とした教育普及事業（事業実績統計表P133）

大学等との連携（事業実績統計表P136～139）

講座・講演会等の開催実績（事業実績統計表P140～146）

ギャラリートーク実施状況（事業実績統計表P148～150）

②-1 ボランティア活動の支援

○方針

解説ボランティアの受入れ、展示解説・インフォメーション・学習普及活動補助等の充実、ボランティア研修の充実（年10回程度）を図る。

イベントボランティア制度を活用しイベント活動を円滑に実施する。

○実績

1) 登録人数 85人（解説ボランティア 74人、イベントボランティア 11人）

2) 活動内容 解説ボランティア（全ての開館日）

作品解説、会場インフォメーション、西新館設置図書コーナー・国宝端末コンピュータの支援、各種講座の支援（受付及び機器補助）

イベントボランティア（イベント実施日）

会場整理、パンフレット配布、受付

3) 解説ボランティアを対象とした研修 10回

4) その他 ・解説ボランティアは展示会場を中心に10人程度配置し、観覧者からの多くの質問に対応できるようにした。

・外国人（英語が中心）にも対応できる解説ボランティアを全ての曜日に配置した。

・解説ボランティアの作品解説（正倉院展）

恒例の特別展「正倉院展」における講堂でのスライドを用いての解説（延べ94回）



・正倉院展期間中、奈良SGGクラブの協力による外国人向け奈良観光案内ボランティアを配置した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

・解説ボランティアの解説能力と資質向上を目的に、新出陳や特別展・特別陳列前に研究員によるボランティア研修を行い、多くのボランティアに学習の場を提供できた。

・特別展「正倉院展」におけるボランティアによる作品解説については、展示会場に入る前に講堂での解説実施を呼びかけ、映像を用いて展示品を分かりやすく解説し、聴講者から非常に好評であった。

ボランティア受入実績（事業実績統計表P152～154）

②-2 博物館支援者の増加

○方針

「友の会」会員数の増加を図りリピーターの養成に努める。また、企業等との連携による支援体制の整備を図るため、賛助会員制度の拡充、公共交通機関等とのタイアップによる入館者数の増加及び入館者サービスの向上を図る。

○実績

1) 友の会

会員数 2,288人（一般 2,038人、学生 227人、家族 23人）（19年3月31日現在）

友の会会員を中心に広報活動した夏季講座「聖武天皇と〈奈良〉」など、会員向けに博物館情報を積極的に広報し、リピーターになってもらうよう働きかけた。

2) 賛助会員

会員数 特別賛助会員 5団体（3団体）

賛助会員 団体会員10団体（9団体）、個人会員20名（16名）（ ）内は17年度

- ・ 賛助会員に対し、展覧会事業の理解を深めていただくため、特別展（「大勧進 重源」「北村昭斎」「第58回正倉院展」）において、特別鑑賞会を実施
- ・ 賛助会員者を館内の芳名板に掲載した。

3) その他

①博物館主催イベントの実施

「雅楽のタペー管弦と舞楽」 「これがモーツァルトの愛した響き」



「和太鼓演奏会」



「春日若宮おん祭の舞楽」

「オペラ藤戸」



「お水取り講話と粥の会」



②地域や企業等への連携・協力

- ・ 「ライトアップブロード・なら2006」に協力し、本館と仏教美術資料研究センターをライトアップ
- ・ 「なら燈花会」に協力し、敷地内にろうそく設置
- ・ 「燈火のあるカフェラスLIVE」に後援及び会場提供し、3月10・11・12日に計9公演を実施した。
- ・ 協力団体「奈良国立博物館結の会」主催による「野分のお茶会」「お水取り展鑑賞と御松明」に協力
- ・ 旅行会社による団体観覧者に対し、正倉院展期間中、展示鑑賞前にボランティアによる作品解説を実施
- ・ 奈良県農林部による「大和野菜」「奈良のうまいもの」紹介に協力
- ・ 大和郡山市の観光PRに協力
- ・ 「ミュージアムぐるっとパス・関西2006」に継続加入

10月28日付け新聞記事（雅楽の夕べ）



11月3日付け新聞記事（これがモーツァルトの愛した響き）



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 2) 賛助会員に対し、特別鑑賞会の開催や、博物館だよりや芳名板に掲載することにより、博物館賛助会員の魅力を訴えかけることができた。
- 3) ・博物館主催イベントについて、共催や後援をマスコミ等に積極的に働きかけ、博物館イベントを記事等に取り上げてもらう努力をした。
・奈良の夏季における代表的な行事である「なら燈花会」に敷地を提供し、奈良への観光客誘致に積極的に協力した。

【見直し又は改善を要する点】

- 1) 館内表示やホームページで積極的に広報し、友の会会員数の増加を図る。

友の会（事業実績統計表P156）

渉外活動（事業実績統計表P161～163）

留学生の日（事業実績統計表P173）

(4) 調査研究成果の反映

○方針

展覧会等の事業に結びつくよう調査研究を実施し、平常展や特別展、特別陳列等でその成果を反映させる。

○実績

1) 南都諸社寺に関する計画的な調査研究

①概要・成果

近隣社寺へ奈良国立博物館に対する積極的な協力の働きかけを行った。また、春日大社おん祭に関する文化財の調査、19年度開催予定の特別展「神仏習合」に関する文化財の事前調査を行った。東大寺戒壇院四天王像（国宝）及び法華堂執金剛神像（国宝）の総合的調査を行い、19年度に成果を公刊する予定で準備中である。

②事業（展示等）への反映

近隣社寺から寄託品を受入れ、平常展の活性化へとつなげた。さらに特別展「大勸進重源」、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」開催により、その成果を展示活動に反映した。

2) 仏教美術の光学的調査研究

①概要・成果

東京文化財研究所との共同研究として、薬師寺所蔵の吉祥天画像（国宝）の光学的調査を実施し、使用材料・制作過程等について検討するとともに、高精細デジタルコンテンツを作成する。今年度は共同研究協定を延長し継続して調査研究を行い、19年度にはその成果を公刊する予定で準備中である。

②事業（展示等）への反映

仏教美術の光学的調査手法の一部を展示方法にも活用するため、親と子のギャラリー「探検！仏さまの文様」では、大画面ディスプレイを会場内6箇所に設置し、展示品とその精細デジタル画像を一緒に公開した。

3) 保存修理に関する調査研究

①概要・成果

文化庁が行った子島曼荼羅（国宝）の復元模造事業に関して協力した。また、文化財保存修理所で行う寄託品の修理事業を管理・指導した。

②事業（展示等）への反映

特別陳列「国宝 子島曼荼羅」では復元模造及び原品を並べて展示し、文化財保存の一例をアピールし、かつ復元過程を盛り込んだ解説付き図録も刊行した。平常展では法隆寺「天蓋」の修理完了を契機に公開した。法隆寺「天蓋」は伝存する我が国最古の遺例であり、公開は多くのマスコミに取り上げられ、仏教美術の名品を展示する平常展の充実につながった。

4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究

①概要・成果

仏教美術の専門館である奈良国立博物館は、日本仏教美術に関するもののみならず、広くアジアを視野に入れた展示を構成している。そのため、中国や朝鮮半島における文化財とわが国の文化財の比較研究を実施している。今年度は学術協定を結んでいる中国・上海博物館へ3名、中国・国家博物館へ1名、韓国・慶州博物館へ1名を派遣した。また上海博物館から3名・韓国・慶州博物館から2名の研究員を受入れた。

②事業（展示等）への反映

特別展「大勸進重源」では、17年度の中国現地調査を踏まえて、重源関係遺跡のパネル展示を行った。特別展「第58回正倉院展」では、東アジア文化圏の中で正倉院宝物の意義を考察し、展示及び展覧会図録に反映した。また正倉院宝物の源流をシルクロードに探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事へ協力した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1) 特別展「大勧進重源」では、東大寺中の処々に分散する倉の調査を行い、また展示品のひとつであるアメリカハーバード大学サックラー美術館の阿弥陀如来大仏手が、三重・新大仏寺の阿弥陀如来立像の左手であることを発見し、新聞等で公表した。

(5) 快適な観覧環境の提供

① 観覧環境の整備プログラム等の策定

○方針

- 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。
- 2) 展示解説の充実や見やすい表示等を行うとともに、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、利用者に対するサービスの向上を図る。
- 3) より良い観覧環境を確保するよう利用者サービスの向上に努め、開館日、開館時間の弾力的運用等を実施する。

○実績

1) 観覧環境の充実

- ・本館出入口横に手すりを設置し、観覧者の安全性確保に努めた。
- ・正倉院展期間中、コインロッカーの増設や手荷物預かり所を設けて、快適に観覧できる環境づくりを行った。また、看護師を館内に常駐させ、体調不良等の観覧者に適切な処置にあたった。
- ・外国語版リーフレットの作成（英・中・韓・独・仏・西語の6ヶ国語）
外国人入館者への対応として、外国語版リーフレットの作成のほか、英語が話せる解説ボランティアを全ての曜日に配置、英語版チラシの作成、展示解説の英語表記を行った。
- ・リニューアルした本館では、展示作品をより良く鑑賞してもらうために、照明設備を増設した。
- ・混雑が起こりやすい正倉院展では、混雑状況をホームページで公開、入館待ち時間のアナウンス、定期的な入場制限、陳列品の配置や音声ガイド解説場所の考慮、展覧会あいさつ及び会場案内図を入場前に配布することにより、混雑緩和に努めた。

2) 夜間開館等の実施状況

①夜間開館（19時まで延長） 開催日数 37日

実施日 4月最終から10月最終までの毎金曜日、1月第2月曜日の前日、2月3日、3月12日、8月11日～15日、12月17日

②開館日の増 開催日数 9日

実施日 ゴールデンウィーク期間中、正倉院展期間中、年末年始（12月26日・27日、1月2日）、近隣社寺等及びその他地元開催行事に合わせた休館日（月曜日）

③開館時間の弾力化 正倉院展会期中は、無休及び開館時間前後拡大（9時～18時、金曜日は19時まで）

④無料観覧日

平常展のみ 5月5日、9月18日、11月18日・19日、2月3日

11月18日・19日は「関西文化の日」に参加して、平常展を無料とした

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1) ・正倉院展期間中に、看護師の常駐を実施したことにより、体調不良を訴える入館者に適切な処置を施し、入館者の安全性確保に努めた。
・本館リニューアルに伴い展示照明を増設し、仏教美術をより鮮明に鑑賞できる環境の実現を図り、観覧者からも好評を得た。

【見直し又は改善を要する点】

- 2) 正倉院展における混雑緩和の措置は一定の効果を得たが、来館者の満足度向上の実現のために、さらなる措置を検討・実施する必要がある。

高齢者、身体障害者等に配慮した設備等（事業実績統計表 P 174）

音声ガイド実施状況（事業実績統計表 P 175）

② 一般来館者の満足度調査及び専門家の批評聴取

○方針

- ・一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的を実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。
- ・特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

○実績

- ・平常展アンケートの実施（全開館日）
回答数 1,549件（良い 68%、普通 11%、良くない 3%）
- ・英語版平常展アンケートの実施（全開館日） 回答数 105件
- ・特別展アンケートの実施（特別展期間中）
 - 「大勸進 重源」 回答数 147件（良い 82%、普通 10%、良くない 6%）
 - 「北村昭斎」 回答数 48件（良い 96%、普通 0%、良くない 4%）
 - 「第58回正倉院展」 回答数 555件（良い 67%、普通 17%、良くない 10%）
- ・展示評（特別展）を博物館だよりに掲載
年4回発行の『奈良国立博物館だより』に毎回、直近の特別展・特別陳列について専門家からの展覧会評を掲載
- ・アンケート結果を職員の共通認識とするよう周知を行い、改善すべき点を考察した。

○自己点検評価

【見直し又は改善を要する点】

アンケート回答数をあげるため、アンケート専用コーナーを整備することにしたい。

平成18年度特別展アンケート結果（事業実績統計表附属資料）

③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

○方針

ミュージアムショップやレストランの利用者へのアンケート調査を実施し、調査結果を踏まえ、関係者とも協議し、利用者サービスの向上に努める。

○実績

・オリジナルグッズ4点を新規作成し、奈良国立博物館ミュージアムショップでのみの限定販売を始めた。

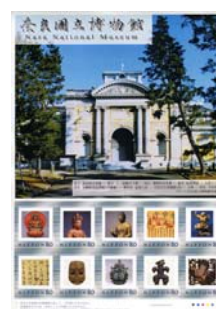
オリジナルぐい呑み



奈良国立博物館限定酒「宝相華」



オリジナル記念切手



オリジナルTシャツ



- ・正倉院展期間中、臨時売店の設置・野分のお茶会の実施・出張郵便局の設置・奈良の観光案内やうまいもの紹介を実施した。
- ・アンケート調査の結果を、レストランやミュージアムショップに報告し、接客態度やメニューの改善に役立てた。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

18年度の制作したオリジナルグッズ4点は、奈良国立博物館でのみの限定販売であり、来館者への興味づけと達成感を感じてもらえる要因となった。またTシャツのデザインは解説ボランティアの提案であり、また限定酒「法相華」のネーミングは職員の投票で決定し、博物館全体として新規グッズ作成に取組み、来館者へのより良いサービスの提供に努めた。

3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化

(1) 調査研究の成果の発信

○方針

調査研究の成果を展覧会目録や研究紀要の刊行、シンポジウムの開催やインターネットを活用して広く発信する。

○実績

1) 刊行物

展覧会目録（すべて作品解説付きで、展覧会担当研究員の総論や各論を掲載）

・ 8冊刊行

『御遠忌800年記念特別展 大勧進 重源—東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出—』（特別展図録）

『特別陳列 やまとの匠—近世から現代まで—』（特別陳列図録）

『親と子のギャラリー 探検！仏さまの文様』（親と子のギャラリー図録）

『特別陳列 復元模写完成記念 国宝 子島曼荼羅』（特別陳列図録）

『特別展 北村昭齋—漆の技—』（特別展図録）

『第58回正倉院展』（特別展図録）

『The 58th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』（特別展英語版図録）

『特別陳列 おん祭りと春日信仰の美術』（特別陳列図録）

2) シンポジウム等

・ 正倉院学術シンポジウム「正倉院宝物と八世紀東アジアの文化」

（10月29日、参加者数 160名、会場 春日大社感謝・共生の館）

・ 国際研究集会「高麗時代の美術」

（19年2月3日、参加者数 61名、会場 講堂）



正倉院学術シンポジウム

3) その他

・ ホームページ上で『鹿園雑集』のバックナンバーを公開

・ 読売新聞「鹿園鑑照—奈良国立博物館で見る名宝—」で展示作品について定期的に掲載

・ 朝日新聞「祈りの美」で仏教美術作品について定期的に掲載

・ 文化財保存修理所で修理した文化財を写真パネル等で展示

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

1) 特別展及び特別陳列等の開催に伴い展覧会目録を刊行し、作品解説を付すに留まらず、展覧会開催で得た成果を発表することにより、充実した図録との評を多数受けた。

3) 新聞紙上に展示品及び所蔵品についての解説や、研究成果の発表を行い、奈良国立博物館の活動を広く一般にアピールできた。

学会等発表実績一覧（事業実績統計表P189～191）

論文等発表実績一覧（事業実績統計表P200～201）

調査研究刊行物一覧（事業実績統計表P203～204）

シンポジウム開催実績一覧（事業実績統計表P205～206）

(2) 海外研究者の招聘

○方針

国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

○実績

海外の美術館・博物館等からの研究員招聘 10名（目標6名）

海外の美術館・博物館等への研究員派遣 16名（目標6名）※延べ人数

1) 国際交流協定を結んでいる4機関と研究員の招聘及び派遣により、文化財の調査研究を行った。

協定機関 中国・上海博物館、中国国家博物館、中国・河南博物院、韓国国立慶州博物館

- ・上海博物館から研究員3名を招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは3名を派遣し、上海博物館及び中国国内の仏教遺跡の調査研究を行った。
- ・国立慶州博物館から研究員2名をそれぞれ1ヶ月間招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは1名を派遣し、慶州博物館の所蔵品調査を行った。
- ・中国国家博物館へ1名を1ヶ月間派遣し、中国国家博物館及び中国内の博物館等を視察し調査研究を行った。

2) その他

- ・韓国国立中央博物館から研究員1名を約1年間受入れ、当館収蔵品の調査や国内の博物館美術館における調査に協力した。
- ・正倉院学術シンポジウム開催にあたり、中国・陝西歴史博物館から1名、韓国・弘益大学校から1名招聘し、正倉院宝物が形成された8世紀における両国の文化財に関する研究成果を得た。
- ・シカゴ美術館から研究員1名を、文化庁「在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業」により招聘し、展覧会に関する助言及び意見交換等を行った。
- ・法門寺博物館から前館長 韓金科 氏を、文化庁「外国人芸術家招へい事業」により招聘し、日中の密教文化についての意見交換を行い、特別講演会「法門寺塔地宮の文物と密教」を開催した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1) 上海博物館及び慶州博物館と研究員交流を実施した。派遣機関で所蔵文化財調査を実施し、仏教美術に関する調査及び将来の作品貸借へとつながる調査ができた。
- 2) 韓国国立中央博物館研究員を約1年間受入れ、研究交流のみだけでなく、韓国内の博物館等との連絡調整等に寄与し、相互理解を図ることができた。

研究交流実績（事業実績統計表P176～188）

(3) 保存修理者への研修プログラム

○方針

文化財保存修理所と協力し研修を開催・実施する。

○実績

文化財保存修理所における修理工房と連携し研修会を実施した。(12月13日)

場所：講堂

参加者数：35名

テーマ：「彫刻の修理とその光背について」

内容：阿弥陀如来立像の解説、設計書での修理仕様、台座・本躰・光背修理について

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

文化財修理所の各工房が参加する研修会として、昨年度は絵画修理・本年度は彫刻修理について実施することができた。

(4) 収蔵品の貸与

○方針

収蔵品の保存状況にも留意しつつ、館外からの要望に可能な限り応えて、文化財の普及を図る。

○実績

貸与の件数 161件（目標130件）

海外への貸与の件数 36件（うち寄託品20件）（海外展「観音菩薩」出品作品25件を含む）

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・文化財の保護・保存の観点から、貸与に関してはその状態を十分に調査し、できる限り要望に添うことに努めた。
- ・文化庁主催海外展「日本の仮面」及び韓国国立中央博物館主催「螺鈿展」に作品を貸与し、日本文化への理解を深める目的に寄与した。

国内の博物館・美術館等への収蔵品貸与件数（事業実績統計表P207）

海外への列品貸与（事業実績統計表P209）

考古の相互貸借実績（事業実績統計表P210）

(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

○方針

公私立博物館・美術館等が開催する展覧会に対する援助・助言等を行う。「鑑真和上展」の企画・展示等の協力を行う。

○実績

公私立博物館・美術館等の展覧会等に対する指導・助言等の実施

- ①「鑑真和上展」（北海道立近代美術館 6月24日～8月20日）
- ②「信貴山縁起絵巻展」（石川県立美術館 9月1日～9月24日）
- ③「燦爛たる千年の光—螺鈿漆器—」（韓国・国立中央博物館 9月4日～10月8日）
- ④「日本の仮面」（シンガポール・アジア文明博物館 9月7日～11月5日）
- ⑤「正倉院 その源流を訪ねて—シルクロードを旅した美術—」（四日市市立博物館 19年1月27日～3月11日）
- ⑥「三ヶ日町字志出土瓦塔 特別展示」（浜松市博物館 19年2月3日～4月8日）
- ⑦「悟りの世界」（アメリカ・ジャパンソサエティーギャラリー 19年3月28日～6月17日）

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・「鑑真和上展」「信貴山縁起絵巻展」は、出展作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言並びに補助、目録の編集協力を行い、展覧会全般に対して協力援助を行った。
- ・「燦爛たる千年の光—螺鈿漆器—」は、日本国内分作品の選定・出品交渉・集荷・輸送等に対して協力援助を行った。

公私立博物館・美術館等に対する援助・助言（事業実績統計表P211～215）

II 業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

○方針

1 業務の効率化
1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中止に節減に努める。 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを推進する。
2) 公開講座等を開催し、施設の有効利用を推進する。 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行い、施設の有効利用を推進する。
3) 看視業務等の業務内容を見直し、可能なものから外部委託を実施する。
4) クライアント機、サーバー機の充実を図り、館内ネットワークの活用を推進する。
5) 物品調達や役務契約などの一般競争入札を推進する。
2 事業評価の実施及び職員の意識改善
1) 評議員会、文化財保存修理所運営委員会、運営会議などを実施し、年度を通しての事業評価を行い、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。
2) 各種研修を通じて、職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図るとともに、職員を外部の研修に派遣し、その資質の向上を図る。
3) 危機管理について現状を見直し、対策を検討する。

○実績

1 業務の効率化										
1) 省エネルギー等（リサイクル）										
電気 (単位：kwh)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>14年度</th> <th>15年度</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,327,578</td> <td>4,442,250</td> <td>4,563,270</td> <td>4,542,450</td> <td>4,277,992</td> </tr> </tbody> </table>	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	4,327,578	4,442,250	4,563,270	4,542,450	4,277,992
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度						
4,327,578	4,442,250	4,563,270	4,542,450	4,277,992						
前年度比 94.2%										
水道 (単位：m ³)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>14年度</th> <th>15年度</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22,504</td> <td>18,866</td> <td>19,539</td> <td>19,055</td> <td>21,548</td> </tr> </tbody> </table>	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	22,504	18,866	19,539	19,055	21,548
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度						
22,504	18,866	19,539	19,055	21,548						
前年度比 113.1%										
入館者数が17年度の44万4,712人から47万7,638人に7.4%増大したことによるトイレ用水が増加したため。										
ガス (単位：m ³)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>14年度</th> <th>15年度</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>457,510</td> <td>574,270</td> <td>551,046</td> <td>510,592</td> <td>511,913</td> </tr> </tbody> </table>	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	457,510	574,270	551,046	510,592	511,913
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度						
457,510	574,270	551,046	510,592	511,913						
前年度比 100.3%										
入館者数の増加による展示室湿度調整に伴うボイラー運転時間当たりエネルギー使用量が増加したため。										
紙 (単位：kg)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>14年度</th> <th>15年度</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16,786</td> <td>15,114</td> <td>14,806</td> <td>15,906</td> <td>12,594</td> </tr> </tbody> </table>	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	16,786	15,114	14,806	15,906	12,594
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度						
16,786	15,114	14,806	15,906	12,594						
前年度比 79.1%										

廃棄物（一般） (単位：kg)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
3,284	3,304	3,234	3,416	3,324

前年度比 97.3%

廃棄物（産業） (単位：kg)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
1,475	4,395	970	1,050	1,465

前年度比 139.5% 本館リニューアルに伴う不用物の廃棄が増加したため。

2) 施設の有効利用（外部利用件数／全体利用件数）

施設名	18年度	参考 17年度
講堂	21件/ 43件（うち有償貸与 10件）	16件/45件（うち有償貸与 9件）
茶室	31件/ 31件（うち有償貸与 30件）	21件/26件（うち有償貸与 21件）
地下回廊	90件/ 91件（うち有償貸与 61件）	64件/70件（うち有償貸与 47件）
仏教美術資料 研究センター	2件/ 3件（うち有償貸与 2件）	2件/ 8件（うち有償貸与 1件）
会議室	11件/ 11件（うち有償貸与 3件）	5件/ 5件（うち有償貸与 1件）
敷地	123件/125件（うち有償貸与 93件）	62件/64件（うち有償貸与 17件）

※延べ件数



結婚式（於：仏教美術資料研究センター）



燈火のあるカフェテラスLIVE

（於：敷地内西新館ピロティ）

3) 外部委託

- ・ 平常展、特別展での看視・売札に係る臨時アルバイトの継続的導入
- ・ 特別展での売札業務の委託
- ・ 正倉院展期間中、臨時コインロッカーの管理について、隣接する臨時休憩所運営業者に委託
- ・ 正倉院展期間中、入場車両・売札前・新館玄関前及び会場内での誘導の委託
- ・ 施設関係の保守・点検(空調・エレベーター・図書情報管理システム・電子案内板・電話設備・報知器等)
- ・ 館内施設(トイレ・ガラス・床等)及び館外敷地の清掃業務
- ・ 衛士業務の一部を外部委託

4) O A 化

- ・ 電子メール等の活用による各種通知・連絡のペーパーレス化の浸透
- ・ 業務用の各種統計データ、資料のファイルサーバ上への保存による情報の共有化

5) 一般競争入札

- ・ 一般競争入札件数 1件（図録印刷 1件）

2 事業評価に実施及び職員の意識改善

1) 評議員会、文化財保存修理所運営委員会、運営会議

- ・開催回数 評議員会 2回、文化財保存修理所運営委員会 1回、運営会議 15回
- ・議事内容 評議員会 第1回（7月9日、17年度事業報告及び18年度事業計画について）
第2回（19年3月19日、18年度事業報告及び19年度事業計画について）
文化財保存修理所運営委員会
（19年3月23日、17・18年度修復文化財の報告及び19年度修復文化財の予定について）
運営会議（列品の貸出、事業計画、事業収支、その他館の運営について検討）

2) 研修

- ・篠原国立博物館監事による講演会を実施し、職員32名が参加
テーマ 博物館の運営管理における原価意識について



- ・法人本部主催研修（新任職員研修、接遇研修、研究職員研修）への参加

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1 1) 夏季における省エネルギーの実施や携帯電話へ通話時における割引制度の活用等を職員に通知し、省エネルギーの意識を高めた。
- 2) ・重要文化財指定の仏教美術資料研究センターを結婚式会場として貸出した。この利用はマスコミに取り上げられ、開かれた博物館を広くアピールできた。
・茶室等の施設使用料金を設定し、外部利用を図った。
- 2 2) 博物館監事の篠原氏を講師に招き、職員に対し原価意識により効率化を図れるという意識改革を行った。